

# 國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 物語本文の研究：  
『源氏物語』と『狭衣物語』と

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 豊島, 秀範, Toyoshima, Hidenori メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.57529/00000349">https://doi.org/10.57529/00000349</a>

# 物語本文の研究

— 『源氏物語』と『狭衣物語』と —

豊島秀範

平成二十九年度をもって國學院大學を定年退職となる。これまでの四十七年間に世話になった以下の五校にお礼を申し上げたい。日大習志野高校(非常勤二年)。久我山高校(非常勤三年、専任講師三年)。弘前学院大学(十七年。四年間は大学及び短期大学の学長、一年間は学長代理)。群馬女子短大(七年。教学部長等)。國學院大學(十五年)。

國學院大學で学んだ私は、平安文学研究を基調としつつ、ほぼ同じ年数を民俗学と短歌(作歌)にも関わってきたが、ここでは物語文学の本文研究について現状を述べたい。

國學院大學に赴任した平成十五年度に「再び歩み始めた『狭衣物語研究会』」と題して「談話室」に執筆した。三谷栄一先生が始めた『狭衣物語全註釈』が、先生の逝去で第一巻で中断したために、「狭衣物語研究会」を國學院大學の私の研究室に移して『全註釈』の第二巻からの研究発行を継承しようとした時であった。やや発行が遅れ気味であるが、今年度内に第十巻までの発行を目指して研究作業を進めているところである。『狭衣物語』は本文異同の激しい物語であるが、問題はそれほどの異同がなぜ生じたかということにある。三谷先生は解決策の一つとして(『異本文学論』)という視点を提唱された。本文の異同は、単なる誤写や誤脱ではなく、文学意識のもとに意図的に変更されたという把握である。その視点を検証すべく『狭衣物語全註釈』では第一・第二・第三系統の代表的な本文を比較検討する作業を一貫して継続している。まもなく刊行を終える『狭衣物語全註釈』によって「異本文学論」という視点での研究成果が明らかとなる。本学大学院での演習授業でも『狭衣物語』の「蓮空本」を取り上げ、「本文校訂・語釈・現代語訳」などを付した『狭衣物語「蓮空本」の本文と注釈』を國學院大學及び大学院の研究支援費を得て発行を続けている。限

られた本文のみがテキスト化されている中で、巻にもよるが異なる顕著な「蓮空本」の「本文と注釈」の作成は、「狭衣物語」の今後の研究に大きく寄与するはずである。

もう一つは『源氏物語』の本文研究である。平成十七～十八年度に本学の研究補助金を得て、文化庁所蔵の『源氏物語』「平瀬本」の全文を初めて写真撮影し、大学院生により全文を翻刻して公開した。河内本とされる「平瀬本」の本文質を見直し、併せて『源氏物語大成』で止まっている『源氏物語』の本文に関わる調査研究を、平成十九年度から文科省の「基盤研究A」を得て、他大学の五名の連携研究者と開始した。以後、「基盤研究C」を二回続けて取得し、現在は、十一年目を迎えている。この「源氏物語本文資料の新研究」は、毎年、十数本の『源氏物語』の写本を対象に、未翻刻の本文は翻刻して、対校一覧のデータベースを作成し『報告書』に掲載してきた。さらに連携研究者・研究支援者の毎年の研究成果を、公開合同研究発表会を開催して発表し、修正したものを収載してきた。

また、「源氏物語千年紀」の二〇〇八年にはイタリアのベネチア大学にて、我々八名と、イタリアの日本文学研究者七名による国際学会を二日間にわたり開催した。私はフィレンツェでの日本文学研究会にも参加して國學院大學蔵の久我家嫁入本を中心に『源氏物語』の絵と本文について発表した。翌年の二〇〇九年には国文学研究資料館と共催でイギリスのケンブリッジ大学で国際学会を開催、さらに同年から三年間を要して国立国語研究所・国文研と合同でアメリカ議会図書館にて『源氏物語』の未公開写本の調査を行い、その翻刻等は国語研のホームページに掲載されている。

こうした十三年にわたる「源氏物語本文の研究」の結果、『源氏物語』の本文に君臨してきた「青表紙本」は、異同等の多さによって揺らぎが生じ、代わって異なる少ない「河内本」が本文の中心に収まりつつある。さらには、「別本」とされる「陽明文庫本」の本文は、多くは「河内本」に拠りつつも「青表紙本」をも取り込むという特異な本文質が明らかになりつつある。このように、「源氏物語」の本文研究は、今まさに、新たな局面を切り開くべき重要な状況下にあるといつてよい。

(日本文学)